

身近な存在である鏡川の魅力を再発見！

「高知・鏡川 RYOMA 流域学校」第3回講座



1月14日（土）、土佐山夢産地パーク交流館「かわせみ」にて「高知・鏡川 RYOMA 流域学校」第3回講座を実施しました。

今期の受講生11人が参加し、前回のフィールドワークを振り返りつつ、グループワークなどを通じて今後鏡川とどう関わっていくかを具体的に考えました。



まずは改めて自己紹介。自分の好きなこと、興味のあることなどキーワードを書き出してグループ内で発表し合いました。

初めて会話する相手がいたり、フィールドワークと一緒に活動した相手の新たな一面を知ったりと盛り上がり、和やかに進みました。

続いて、12月17日（土）、18日（日）に実施したフィールドワークを振り返りました。写真を見ながら、「こんな体験をしたよね」「ここで聞いた話が印象的だったな」と感想を共有します。フィールドワークに参加できなかった受講生も、話を聞いて現場の雰囲気を感じられたようで、たくさんの質問も飛び交いました。





その後、「まちのコイン」アプリを使った体験づくりワークショップに挑戦。受講生が「まちのコイン」のスポットとなり、自分の関心のあることと鏡川流域でニーズがありそうなことを掛け合わせた体験の提供を目指します。講師やメンター、ファシリテーターらに相談したり、受講生同士でアドバイスし合ったりと、悩みながらも体験を作っていました。

最後に、受講生の一人が作った体験を発表しました。「100ぼっちりくれたら、鏡川の河口にあるカワウのコロニーを観察できるポイントを案内します。趣味の散歩、バードウォッチングと鏡川をつなげてみました」とのこと。すでに「まちのコイン」アプリで公開済みで、「まちのコイン」ユーザーの体験につながっています。



他の受講生も、アイデアを整理し次々に体験を登録。体験する「まちのコイン」ユーザーも、体験を提供する受講生自身も、無理なく楽しく鏡川に関わることのできる体験がたくさん生まれました。これらの体験をきっかけとして、鏡川流域での高知市民の交流が一層活性化していくことでしょう。

次回2月18日(土)はいよいよ最終回。「まちのコイン」でスポットとして作った体験と、今回の講座で得た鏡川流域とのつながりを今後どう活かしていきたいかを受講生が発表する予定です。どんな体験が生まれたのか、そして今後鏡川流域がどう盛り上がっていくのか、今から楽しみです。

